

## 第2章 地域別構想

地域別構想は、全体構想に示した分野別の基本方針を基本として、地域ごとの課題に応じた、より身近なまちづくりの方向性を示すものです。

具体的には、全体構想を踏まえ、町内各地域について、「地域の概況」、「地域の現状と課題」、「地域づくりの目標と方針」を示します。

### 2-1 地域区分の設定

地域区分の設定については、土地利用状況や地形・地理的条件を基本として、既存の地域コミュニティの一体性を考慮し、3地域に区分して設定します。

#### ① 北部地域

○上福島、樋越、飯塚、藤川

#### ② 西部地域

○下新田、上新田、与六分、八幡原、宇貫、上之手、角測、上飯島、福島、斉田、板井

#### ③ 東部地域

○後箇、上茂木、下茂木、川井、飯倉、五料、小泉、下之宮、箱石、南玉

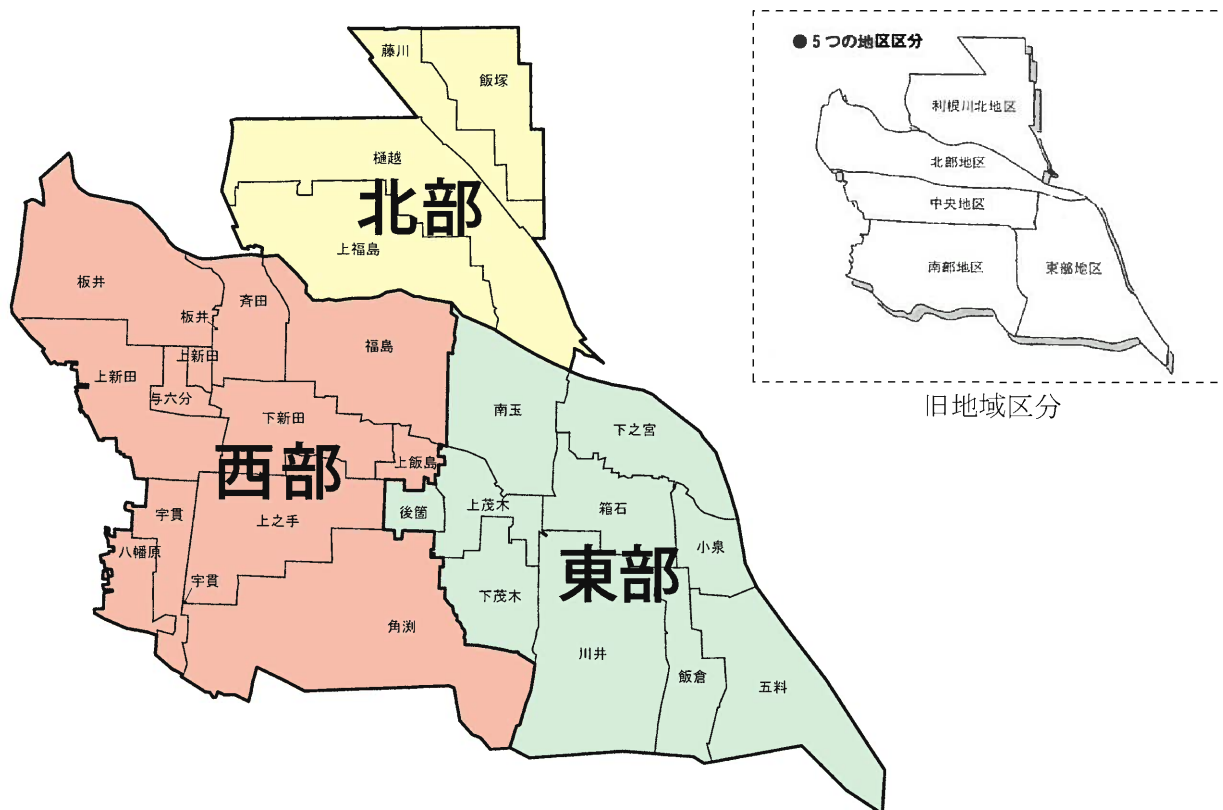


図 地域区分

2-2 北部地域

1. 地域の概況

(1) 地域の特徴

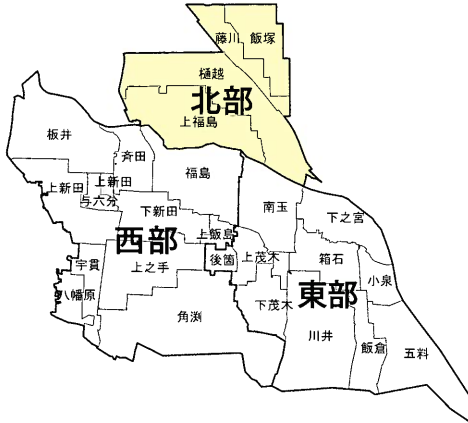


表 北部地域の人口

北部	平成17年	平成22年	増減 (H22-H17) 5年間
人口	6,329	6,202	-127
世帯数	2,165	2,242	77
年少人口率	14.7%	13.3%	-1.4%
高齢化率	13.7%	17.5%	3.8%

人口・世帯数：玉村町人口移動表より集計

年少人口率・高齢化率：群馬県年齢別人口統計調査報告書より集計

図 北部地域の位置

- 本地域は、本町の北部に位置し、北は前橋市、東は伊勢崎市に隣接しており、上福島、樋越、飯塚、藤川地区により構成されています。
- 地勢は、平坦地で、南側に利根川が位置し、利根川、藤川沿いと前橋市の隣接部に市街地や集落地が形成されています。
- 市街地や集落地および幹線道路沿道の周辺は、優良な田園環境を形成しています。

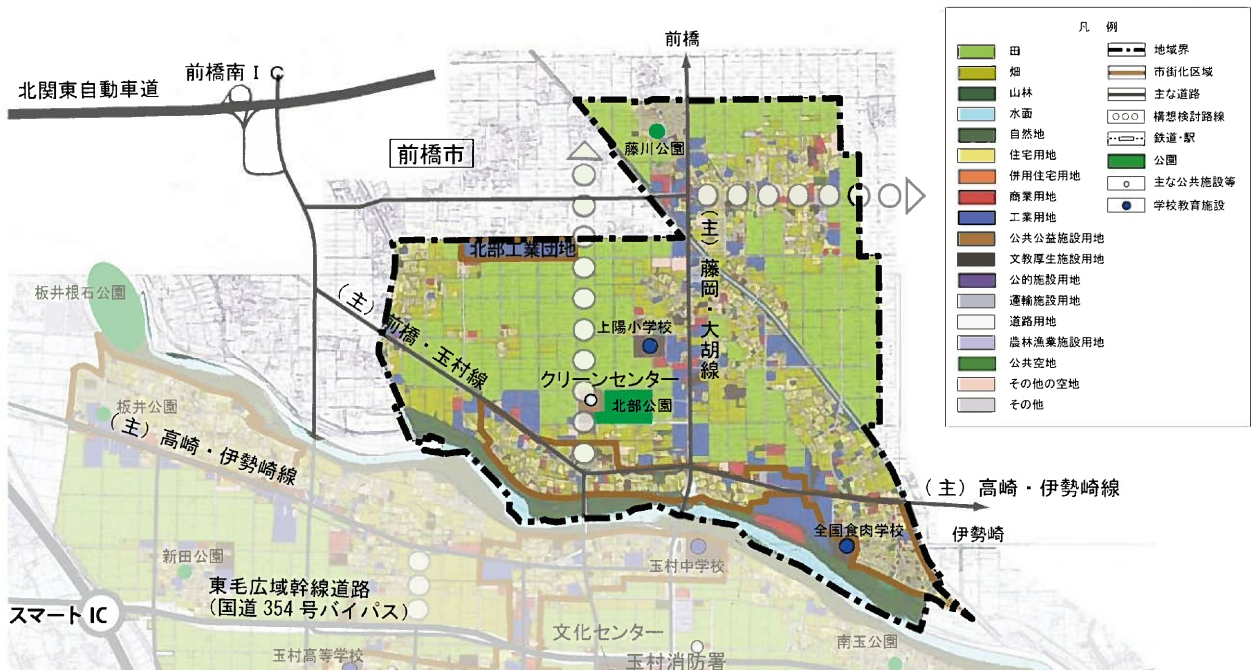


図 北部地域の土地利用現況

## 2. 地域の現状と課題

### (1) 土地利用

#### 【現 状】

- 主要地方道前橋玉村線沿いや前橋市隣接部に市街地が形成されています。また、主要地方道藤岡大胡線や藤川沿いに住宅地や集落地が分布しています。
- 市街地や集落地の周辺では、優良な農地が分布していますが、一部に開発行為等による住宅地が形成されるほか、一団のまとまりある流通系土地利用の誘導が検討されています。
- 市街化調整区域に点在する住宅地や集落地では、高齢化の進展などへの対応とともに、狭あいな生活道路の改善が必要な地区がみられます。

#### 【主な課題】

- 幹線道路沿いの土地利用の推進による都市間連絡軸の強化と適正な土地利用への転換
- 地域活動の維持・活性化に向けた地域拠点や産業拠点の形成と住宅地への居住促進
- 住宅地・集落地の生活環境の維持・改善と周辺農業環境との調和
- 農業生産環境および自然環境の保全・活用



地域拠点内の住宅地  
(上福島地区)



住宅地内の狭あいな道路  
(上福島地区)

### (2) 都市間および地域間の交通網

#### 【現 状】

- 道路は、東西に主要地方道前橋玉村線・高崎伊勢崎線、南北に主要地方道藤岡大胡線が位置し、これら幹線道路により、地域内外との連絡が図られています。その他、地域内を連絡する道路として主要町道が機能していますが、一部の住宅地や集落地では、幅員の狭い区間や安全対策が必要な箇所がみられます。
- 公共交通機関は、主要幹線道路に、都市間を連絡する路線バスが運行されているほか、乗合タクシー（たまりん）が住宅地や集落地に運行されており、地域住民の移動手段として機能しています。
- 都市計画道路は、市街地を中心に 3 路線が計画されていますが、一部に長期未整備な路線がみられます。



(主) 藤岡大胡線  
(上福島交差点付近)

#### 【主な課題】

- 都市間および地域間連絡道路の整備促進とネットワークの強化
- 都市活動の円滑化や防災性の強化などに資する都市計画道路網の整備促進や生活道路の改善
- 住民生活や移動を支える既存公共交通網の維持・充実

### (3) 住宅地および集落地の生活環境

#### 【現 状】

- 住宅地や集落地では、一部に建築協定による居住環境形成が図られていますが、生活道路の幅員や交通安全、公園・広場、雨水・汚水対策が充分でない箇所がみられます。
- 主要河川沿いなどに住宅地や集落地が集積しており、中小河川や水路における生活排水の流入による水質汚濁が懸念されます。

#### 【主な課題】

- 住宅地や集落地における身近な生活環境の改善
- 地震や火災、浸水に対する防災対策、防犯対策の充実
- 下水道の整備促進



建築協定のある住宅地  
(ハーモネートタウン藤川)

### (4) 地域資源

#### 【現 状】

- 本地域には、日本を代表する河川である利根川のほか、藤川などの中小河川が位置し、利根川の河川敷や優良な農地などとともに、身近な緑地・親水・やすらぎ空間として機能しています。
- 北部公園は、サッカー場や子供広場、バラ園、修景池などにより、子供たちの遊戯とともに、住民の憩いの場、交流空間として機能しています。



北部公園 (バラ園)

#### 【主な課題】

- 地域の優良な自然資源や交流資源の保全と活用

### (5) 景 観

#### 【現 状】

- 市街地や集落地周辺は、豊かな田園景観が形成されていますが、幹線道路沿道では、倉庫や流通施設などの沿道利用施設の立地によるまち並みの不統一性がみられます。
- 利根川沿いは、河川緑地などの自然景観が多く残されています。

#### 【主な課題】

- 地域固有の特性である自然景観の保全と活用
- 幹線道路沿道の土地利用誘導とまち並みの誘導



利根川沿いの河川緑地



### 3. 地域づくりの目標

全体構想での将来都市構造や分野別方針、地域の現状と課題を踏まえ、北部地域の地域づくりの目標を次のとおりとします。

#### 北部地域の目標

産業・居住と自然が共生し、  
多彩な交流連携を創出しながら快適に暮らせるまち

- 多様な交流と日常生活を支える生活環境づくり
- 地域資源等を活かした地域拠点の創出と活力向上
- 産業等の維持・拡充による多様な交流の創出
- 優良な農地などの自然環境の保全と活用

### 4. まちづくりの方針

#### (1) 多様な交流と日常生活を支える生活環境づくり

##### ○幹線道路と円滑な交通体系づくり

- ・町内外の交流促進による都市の活力向上を図るため、都市計画道路や主要町道の整備推進により、都市間連絡軸の強化と良好な沿道景観の形成に努めます。

##### ○公共交通機関の機能向上と人にやさしい交通環境づくり

- ・公共交通機関の機能強化や地域拠点における歩道の整備など、歩行者・自転車空間の充実を図り、歩いて暮らせるまちづくりの促進や、人や環境にやさしい交通環境づくりに努めます。

##### ○住宅団地等における居住環境の改善と災害に強いまちづくり

- ・住宅地や集落地では、地区計画などを活用した住民との協働によるまちづくりを推進し、低・未利用地の有効活用、歩道や交通安全施設の整備などにより、安全で快適な居住環境の形成に努めるとともに、教育施設などの避難場所の防災性の向上、ライフラインの耐震補強、浸水対策などを推進し、災害に強いまちづくりを進めます。



藤川公園（藤川団地）

## (2) 地域資源等を活かした地域拠点の創出と活力向上

### ○玉村大橋北交差点付近（地域拠点の形成）

- ・日常生活圏の利便性を支える生活サービスや都市交流拠点を補完する都市機能の集積を図るとともに、北部公園との連携など、地域特性に応じた特色ある地域拠点の形成に努めます。

### ○前橋南 IC 周辺開発との連携

- ・前橋南 IC への近接性と交通アクセス性を考慮し、買回り品や週末レジャー施設として、本地域の生活圏の一部と捉え、バスによる連絡性の改善などによる連携を図ります。



前橋南 IC 周辺の大型商業施設  
(前橋市)

## (3) 産業等の維持・拡充による多様な交流の創出

### ○北部工業団地、利根川北地区（産業拠点の形成）

- ・前橋南 IC との近接性など高速道路アクセス条件の優位性を踏まえ、既存工業系施設の維持とともに、流通系施設の誘導を図り、周辺工業団地との連携による地域の活力の向上や産業交流の創出に努めます。

### ○幹線道路沿道（主要地方道前橋玉村線、主要地方道藤岡大胡線）の適正な土地利用の誘導

- ・倉庫や流通施設の立地状況、特定流通業務施設の路線指定などを踏まえ、周辺の大規模な優良農地の生産環境に配慮しつつ、都市間連絡軸としての適正な土地利用の誘導を図ります。



北部工業団地



(主) 前橋玉村線沿いの流通系  
土地利用検討地（上福島地区）

## (4) 優良な農地などの自然環境の保全と活用

### ○優良な農業生産基盤の保全

- ・市街地や集落地周辺に広がる優良な農地は、引き続き保全・整備を図り、地域産業の一層の発展や地域活力の向上に努めます。

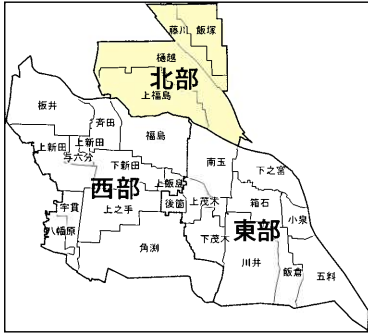
### ○市街地に隣接する自然環境の保全・活用

- ・利根川流域の貴重な自然資源の保全と活用に努め、潤いとやすらぎのある空間の創出に努めます。

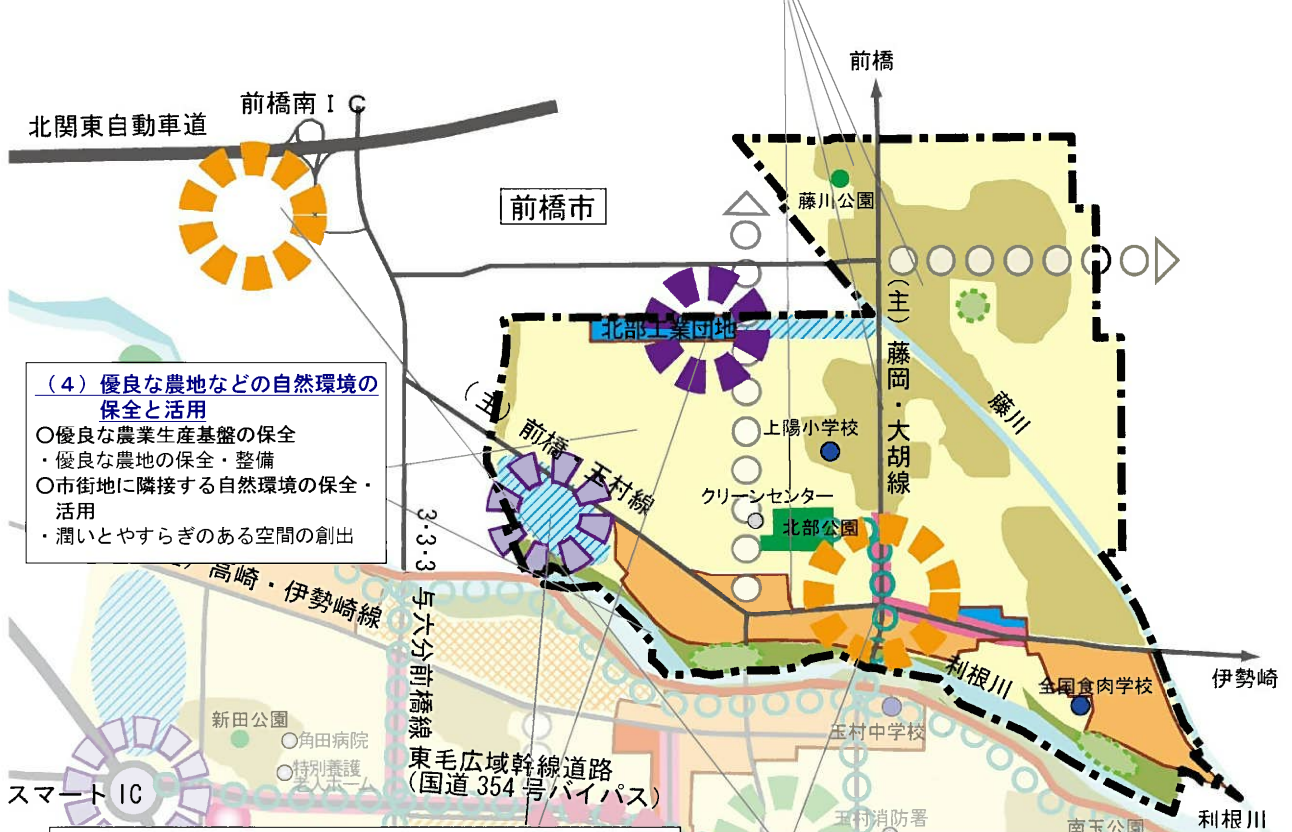


利根川（福島橋付近）

# 北部地域



- (1) 多様な交流と日常生活を支える生活環境づくり**
- 幹線道路と円滑な交通体系づくり
    - ・ 都市計画道路や主要町道の整備推進と良好な沿道景観の形成
  - 公共交通機関の機能向上と人にやさしい交通環境づくり
    - ・ 公共交通機関の機能強化、人や環境にやさしい交通環境づくり
  - 住宅団地等における居住環境の改善と災害に強いまちづくり
    - ・ 住民との協働による安全で快適な居住環境の形成



- (4) 優良な農地などの自然環境の保全と活用**
- 優良な農業生産基盤の保全
    - ・ 優良な農地の保全・整備
  - 市街地に隣接する自然環境の保全・活用
    - ・ 潤いとやすらぎのある空間の創出

- (3) 産業等の維持・拡充による多様な交流の創出**
- 北部工業団地、利根川北地区（産業拠点の形成）
    - ・ 既存工業施設の維持とともに、流通系施設の誘導
  - 幹線道路沿道（主要地方道前橋玉村線、主要地方道藤岡大胡線）の適正な土地利用の誘導
    - ・ 都市間連絡軸としての適正な土地利用の誘導

- (2) 地域資源等を活かした地域拠点の創出と活力向上**
- 玉村大橋北交差点付近（地域拠点の形成）
    - ・ 地域特性に応じた特色ある地域拠点の形成
  - 前橋南 IC 周辺開発との連携
    - ・ 前橋南 IC への近接性と交通アクセス性を考慮した連絡性の改善

凡例		
住宅地	地域界	都市交流拠点
住宅系構想市街地 (既成市街地)	市街化区域	地域拠点
住宅系構想市街地 (新市街地)	主な道路	産業拠点
商業業務地	構想検討路線	産業構想拠点
沿道サービス地	鉄道・駅	交流レクリエーション拠点
工業地	公園 (既存)	商業系土地利用検討地
産業・業務系構想市街地 (既成市街地)	公園 (構想)	
産業・業務系構想市街地 (新市街地)	主な河川	
農地	主な公共施設等	
集落地	サイクリングロード	
河川緑地	自転車・歩行者ネットワーク	
	歴史文化資産	
	学校教育施設	

図 北部地域のまちづくり方針（案）



2-3 西部地域

1. 地域の概況

(1) 地域の特徴

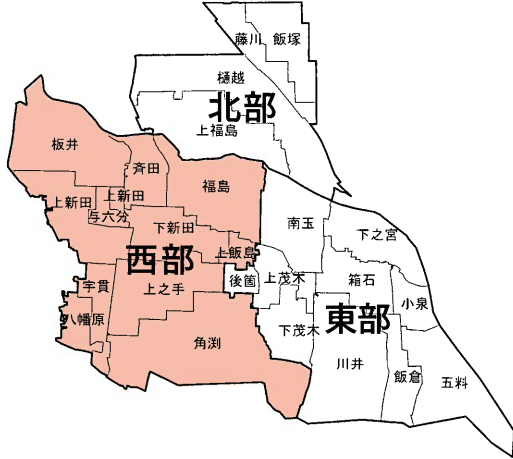


図 西部地域の位置

表 西部地域の人口

西部	平成17年	平成22年	増減 (H22-H17) 5年間
人口	20,670	20,394	-276
世帯数	7,298	7,610	312
年少人口率	17.6%	14.7%	-2.9%
高齢化率	13.0%	16.1%	3.1%

人口・世帯数：玉村町人口移動表より集計

年少人口率・高齢化率：群馬県年齢別人口統計調査報告書より集計

- 本地域は、本町の西部に位置し、西は高崎市、南は藤岡市に隣接しており、下新田、上新田、与六分、八幡原、宇貴、上之手、角淵、上飯島、福島、斉田、板井地区により構成されています。
- 地勢は、平坦地で、北側に利根川、南側に烏川、西側に関越自動車道が位置し、高崎市・伊勢崎市を連絡する東毛広域幹線道路（国道354号バイパス）と関越自動車道の（仮称）高崎・玉村スマートICの整備が進められています。
- 国道や県道沿いに市街地が形成され、役場や文化センターをはじめとする公共公益施設が立地し、都市活動や住民活動の中心として機能しています。

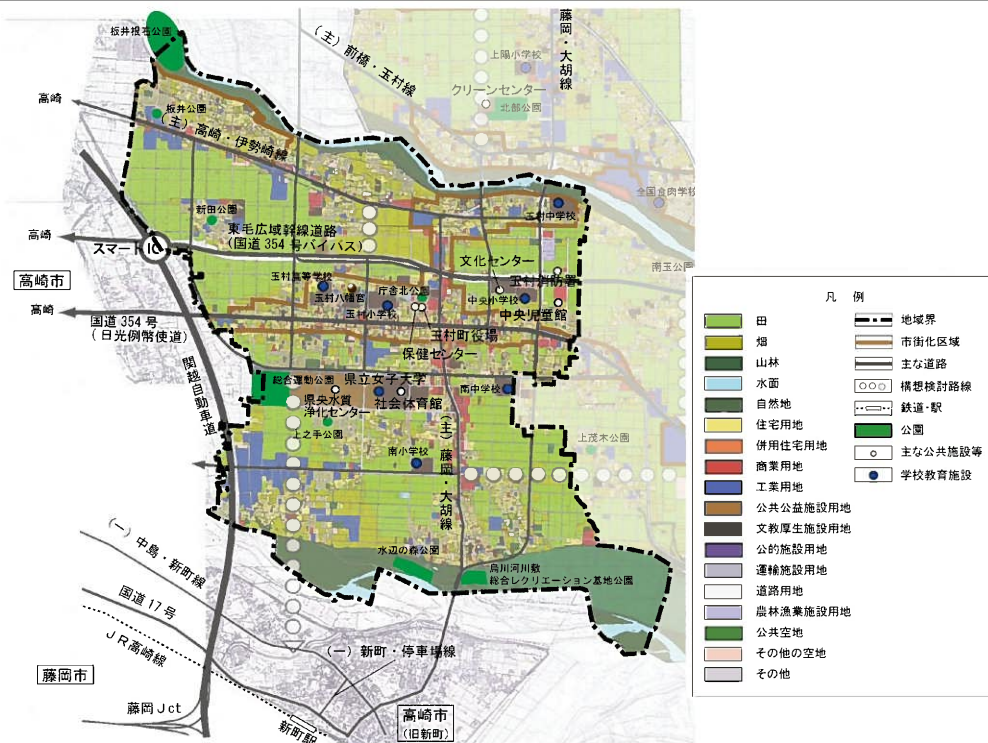


図 西部地域の土地利用現況



## 2. 地域の現状と課題

### (1) 土地利用

#### 【現状】

○国道 354 号（日光例幣使道）および主要地方道藤岡大胡線、主要地方道高崎伊勢崎線沿いに商業業務施設や公共公益施設が集積するとともに、住宅系市街地が形成されていますが、土地利用の混在や無秩序な市街地形成がみられます。また、これら幹線道路沿いをはじめとして、住宅地や集落地が集積しています。

○市街地縁辺部や幹線道路沿道の市街化調整区域では、ミニ開発による住宅開発や沿道利用施設の立地などにより、無秩序な都市化が進展しており、市街化区域への編入などによる適正な土地利用の規制・誘導が必要となっています。

○東毛広域幹線道路（国道 354 号バイパス）と（仮称）高崎・玉村スマート IC の整備が進められており、幹線道路沿道やスマート IC 周辺の開発需要が見込まれています。

○市街地や集落地周辺にまとまりある農地が分布するとともに、利根川、烏川沿いに河川緑地が分布し、農業生産基盤や自然景観地として良好な景観を形成しています。



(主) 藤岡大胡線沿いの商業施設



工場と住宅地の混在  
(市街化調整区域)

#### 【主な課題】

- まちの活性化・賑わいづくりに向けた商業業務施設の立地促進や土地利用の適正誘導
- 良好な居住環境形成に向けた市街化調整区域の土地利用の規制・誘導
- 東毛広域幹線道路（国道 354 号バイパス）の整備や（仮称）高崎・玉村スマート IC の開設を有効に活用した産業・業務機能誘導、拠点形成および居住促進
- 住宅地・集落地と農業環境との調和、生活環境の維持・改善
- 農業生産基盤・河川空間の保全・活用

### (2) 都市間および地域間の交通網

#### 【現状】

○道路は、東毛広域幹線道路（国道 354 号バイパス）が地域の中央を横断し、高崎市～関越自動車道～伊勢崎市を結ぶ広域幹線道路として整備が進められており、関越自動車道との交差付近には、（仮称）高崎・玉村スマート IC の開設が予定されています。また、広域幹線道路として、国道 354 号（日光例幣使道）が位置し、周辺都市との都市間交流を支えています。



東毛広域幹線道路  
(国道 354 号バイパス)  
(仮称) スマート IC 予定地周辺

○その他、都市間や地域間を連絡する道路網として、主要地方道藤岡大胡線・高崎伊勢崎線・前橋玉村線や町道などが機能していますが、一部では朝夕の渋滞がみられるほか、住宅地や集落地では幅員の狭い区間や安全対策が必要な箇所がみられます。

○都市計画道路は、市街地を中心に9路線が計画されていますが、長期間未整備な路線がみられます。

○公共交通機関は、主要幹線道路に、都市間を連絡する路線バスが運行されているほか、役場周辺を基点とする乗合タクシー（たまりん）が住宅地や集落地に運行されており、地域住民の移動手段として機能しています。



乗合タクシー（たまりん）

#### 【主な課題】

- 主要幹線道路等、都市間および地域間連絡道路の整備促進とネットワークの強化
- 都市活動の円滑化や沿道景観の形成、防災性の強化などに資する都市計画道路網の整備促進と長期未整備路線の見直し
- 住民生活や移動を支える既存公共交通網の維持および利便性向上に向けた公共交通ネットワークの充実
- 拠点地域等における交通施設のバリアフリー化の促進と安全安心な歩行者・自転車環境の創出

### (3) 住宅地および集落地の生活環境

#### 【現 状】

○主要幹線道路沿いの既成市街地では、無秩序な市街化を背景として、建物用途の混在や幹線道路整備の不足、高齢化の進展や居住人口の減少などがみられ、都市活動の停滞や居住環境の悪化が懸念されます。

○市街地縁辺部では、既存の集積やミニ開発による既成市街地並みの都市的利用が一部にみられ、都市基盤や生活基盤施設が脆弱であり、これら基盤施設の総合的な整備に合わせた居住環境の改善が必要となっています。

○集落地の一部では、宅地開発や建築協定による居住環境形成が図られていますが、生活道路の幅員や交通安全、公園・広場、雨水・汚水対策が充分でない箇所がみられます。

住宅地内の狭い道路  
(下新田地区)

#### 【主な課題】

- 既成市街地における快適な都市環境づくり
- 住宅地や集落地における身近な生活環境の改善
- 地震や火災、浸水に対する防災対策、防犯対策の充実

## (4) 地域資源

### 【現 状】

- 本地域には、役場や文化センターをはじめとする公共公益施設が集積しており、国道や主要地方道沿いの都市機能集積とともに、本町の都市活動や交流活動の中心機能を担っています。
- 国道 354 号（日光例幣使道）沿いは、玉村八幡宮をはじめ歴史的建造物が立地し、一部に旧宿場町の趣が残されています。
- 地域の中央に県立女子大学が位置し、県南部の学術機能の一翼を担っています。
- 関越自動車道、（仮称）高崎・玉村スマート I C の整備が進められており、本町の玄関口としての周辺開発や都市機能の誘導が求められています。



旧宿場町の趣が残る国道 354 号  
（日光例幣使道）



（仮称）高崎・玉村スマート I C 模型

### 【主な課題】

- 中心地としての都市機能の一層の集積や拠点性の強化
- 国道 354 号（日光例幣使道）の歴史資産の保全・活用
- 県立女子大学周辺における学術交流機能の強化
- （仮称）高崎・玉村スマート I C 周辺の新たな産業・業務機能の誘導

## (5) 景 観

### 【現 状】

- 国道 354 号（日光例幣使道）の旧宿場町としての趣や玉村八幡宮などの歴史資産など多くの景観資源を有しています。
- 主要地方道藤岡大胡線の交差付近は、本町の中心的な都市機能が集積し、沿道立地型の飲食施設やサービス施設などが多く立地する沿道景観が形成されています。
- 文化センター周辺は、歴史資料館や中央児童館などとともに、住民の憩いや交流の場として、周辺の自然環境と共生した景観が形成されています。
- 地域の南北の外郭を構成する利根川および烏川は、市街地周辺の水辺・親水空間として、本町の原風景である美しい自然景観を形成しています。



烏川河川敷の親水空間  
（水辺の森公園）

### 【主な課題】

- 商業業務や公共公益機能が集積する中心地として、賑わいのなかにも秩序ある景観の創出
- 河川沿岸における親水空間の拡充と潤いのある景観の創出
- 市街地周辺の自然景観の保全と活用



### 3. 地域づくりの目標

全体構想での将来都市構造や分野別方針、地域の現状と課題を踏まえ、西部地域の地域づくりの目標を次のとおりとします。

#### 西部地域の目標

元気なたまむらを牽引する人・情報・歴史文化が交流連携し、  
活力にあふれるまち

- 都市機能の集積による賑わいと交流があふれるまちづくり
- 歴史資産・地域資源の維持・活用による活力あるまちづくり
- 町内外の交流を促進する交通機能等の充実
- 多様なニーズに対応した快適な居住環境の創出

### 4. まちづくりの方針

#### (1) 都市機能の集積による賑わいと交流があふれるまちづくり

##### ○役場周辺（都市交流拠点）

- ・国道354号（日光例幣使道）と主要地方道藤岡大胡線の交差点付近の役場や公共施設、商業施設が集積する地区は、本町の中心的な機能を担う地区として、都市機能の充実を図るとともに、居住人口の誘導や魅力的な都市空間の創出に努め、賑わいと交流があふれる都市交流拠点の形成をめざします。
- ・文化センターや県立女子大学周辺の交流レクリエーション拠点や国道354号（日光例幣使道）沿道における歴史資産などとの連携を図り、人・情報・歴史文化の多彩な交流と活力の向上に努めます。

##### ○主要地方道藤岡大胡線沿道

- ・主要地方道藤岡大胡線の沿道は、既存の沿道利用施設の集積を活かし、適正な土地利用への転換を進め、商業・業務系の沿道サービス地の形成をめざします。

##### ○文化センター、県立女子大学周辺（交流レクリエーション拠点）

- ・文化センター周辺地区は、施設機能の充実に努めるとともに、周辺拠点との連携を図り、本町の文化交流の中心機能を担う地区として、親しみある交流レクリエーション拠点の形成をめざします。また、住民等との協働によるまちづくりにより、定住促進と地域特性に応じた快適な居住環境の形成を図ります。
- ・県立女子大学周辺地区は、学术交流機能を担う地区として、周辺施設との連携を図り、身近な交流レクリエーション拠点の形成をめざします。



玉村町役場



(主) 藤岡大胡線（役場周辺）



文化センター



### ○（仮称）高崎・玉村スマートIC周辺（産業構想拠点）

- ・（仮称）高崎・玉村スマートIC周辺は、首都圏などからの観光やレジャーの玄関口として、地場産業や観光情報機能などの整備や新たな産業・業務系土地利用としての活用を検討するとともに、都市交流拠点との連携や周辺自然環境との調和に努め、本町の新たな産業拠点の形成を目指します。



玄関口として新たな土地利用の検討  
（仮称）高崎・玉村スマートIC周辺

## （2）歴史資産・地域資源の維持・活用による活力あるまちづくり

### ○国道354号（日光例幣使道）沿道

- ・国道354号（日光例幣使道）沿道は、玉村八幡宮や旧宿場町としての歴史建造物などを活かし、趣のあるまち並みと風情ある景観づくりに努めます。

### ○病院・福祉施設の集積地区（板井・上新田地区）

- ・板井・上新田地区の病院を中心とする地区は、特別養護老人ホームなどの施設が集積しており、医療・介護機能の充実をめるとともに、道路交通機能の充実により、より利用しやすい環境づくりを進めます。



玉村八幡宮本殿  
（国指定重要文化財）

## （3）町内外の交流を促進する交通機能等の充実

### ○地域西側の市街地および周辺地域

- ・地域東側に比べ南北方向の幹線道路機能が弱い西側地域では、町内外の交流促進や都市活動の活力向上を図るため、東毛広域幹線道路（国道354号バイパス）の整備を契機として、都市計画道路と六分前橋線などの整備推進を図り、周辺都市との連携や都市間連絡軸の強化に努めます。



都市計画道路と六分前橋線

### ○（仮称）高崎・玉村スマートICの活用

- ・関越自動車道、（仮称）高崎・玉村スマートICの整備を活かし、高速交通体系の強化による町外交流の活性化を図ります。

### ○交通ネットワークの構築

- ・本町の中心機能を担う地区として、市街地を中心に計画されている都市計画道路などの整備を進め、交通ネットワークの構築を図ります。
- ・長期間未整備な路線については、今後の社会情勢の見通しや交通量の予測などを踏まえ、必要に応じて路線の見直しを行います。
- ・地域ニーズに応じた路線バスや乗合タクシー（たまりん）の維持・充実に努め、住民への移動サービスの向上と交流促進に努めます。

#### (4) 多様なニーズに対応した快適な居住環境の創出

##### ○市街地・新市街地およびその周辺の居住環境形成

- ・拠点や幹線道路沿道では、適正な都市基盤の改善・整備を進めるとともに、土地利用を促進し、多様な居住ニーズに対応した居住環境の形成を図ります。

##### ○住宅地および集落地の居住環境の保全・改善

- ・既存の住宅地や集落地で建築協定などにより良好な居住環境が整備されている地区では、既存の居住環境の保全を図ります。
- ・住宅地や集落地のうち、道路・公園等の施設が必要な地区においては、地区計画などを活用した住民との協働によるまちづくりを推進し、低・未利用地の活用を図るとともに、歩道や交通安全施設の整備を図り、安全で快適な居住環境の形成を図ります。
- ・市街地の縁辺部の既に都市化が進展している地域については、地域の状況に応じて市街化区域の編入により、良好な居住環境の形成に努めます。
- ・文化センターや教育施設などの避難場所の防災性の向上を図るとともに、ライフラインの耐震補強、浸水対策の強化に努め、災害に強いまちづくりを進めます。

##### ○市街地周辺の自然環境の保全

- ・市街地や集落地の周辺に広がる農地や河川緑地などの自然資源については、農業生産基盤や住民の身近な親水空間として、引き続き保全や活用に努めます。



住宅地内の身近な公園  
(下新田公園)

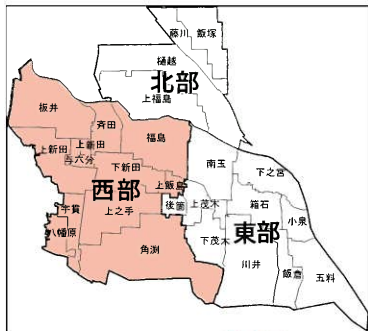


バス停とベンチ



建築協定のまち並み  
(上之手地区)

# 西部地域



**(1) 都市機能の集積による賑わいと交流があふれるまちづくり**

- 役場周辺（都市交流拠点）
  - ・賑わいと交流があふれる都市交流拠点の形成
- 主要地方道藤岡大胡線沿道
  - ・商業・業務系の沿道サービス地の形成
- 文化センター、県立女子大学周辺（交流レクリエーション拠点）
  - ・交流レクリエーション拠点を形成し、定住促進と快適な居住環境の推進
- （仮称）高崎・玉村スマートIC周辺（産業構想拠点）
  - ・新たな産業拠点の形成

**(3) 町内外の交流を促進する交通機能等の充実**

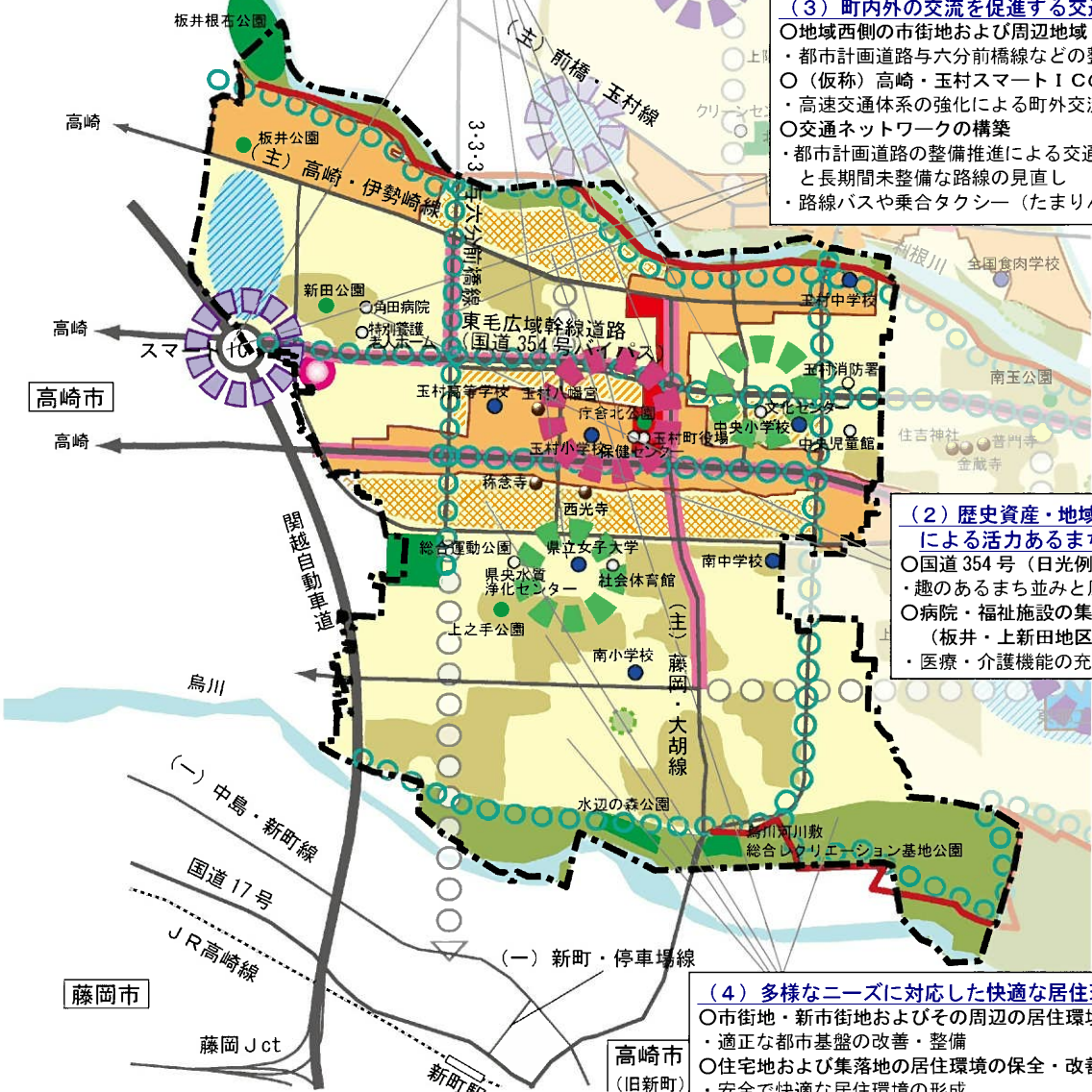
- 地域西側の市街地および周辺地域
  - ・都市計画道路と六分前橋線などの整備推進
- （仮称）高崎・玉村スマートICの活用
  - ・高速交通体系の強化による町外交流の活性化
- 交通ネットワークの構築
  - ・都市計画道路の整備推進による交通ネットワークの構築と長期間未整備な路線の見直し
  - ・路線バスや乗合タクシー（たまりん）の維持・充実

**(2) 歴史資産・地域資源の維持・活用による活力あるまちづくり**

- 国道354号（日光例幣使道）沿道
  - ・趣のあるまち並みと風情ある景観づくり
- 病院・福祉施設の集積地区（板井・上新田地区）
  - ・医療・介護機能の充実

**(4) 多様なニーズに対応した快適な居住環境の創出**

- 市街地・新市街地およびその周辺の居住環境形成
  - ・適正な都市基盤の改善・整備
- 住宅地および集落地の居住環境の保全・改善
  - ・安全で快適な居住環境の形成
  - ・地域の状況に応じた市街化区域への編入
  - ・ライフラインの耐震補強などによる災害に強いまちづくり
- 市街地周辺の自然環境の保全
  - ・田園地域や河川緑地などの自然資源の保全や活用



凡例

住宅地	地域界	都市交流拠点
住宅系構想市街地 (既成市街地)	市街化区域	地域拠点
住宅系構想市街地 (新市街地)	主な道路	産業拠点
商業業務地	構想検討路線	産業構想拠点
沿道サービス地	鉄道・駅	交流レクリエーション拠点
工業地	公園(既存)	商業系土地利用検討地
産業・業務系構想市街地 (既成市街地)	公園(構想)	
産業・業務系構想市街地 (新市街地)	主な河川	
農地	主な公共施設等	
集落地	サイクリングロード	
河川緑地	自転車・歩行者ネットワーク	
	歴史文化資産	
	学校教育施設	

図 西部地域のまちづくり方針（案）



2-4 東部地域

1. 地域の概況

(1) 地域の特徴

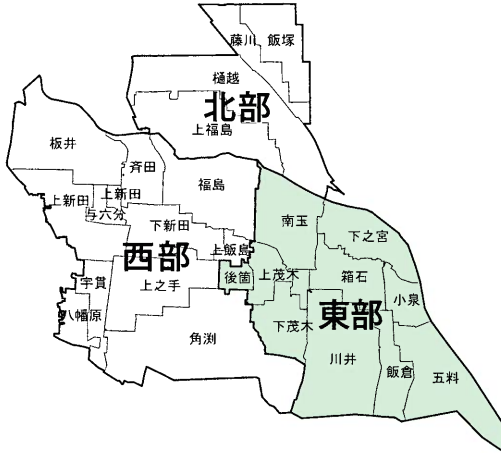


図 東部地域の位置

表 東部地域の人口

東部	平成17年	平成22年	増減 (H22-H17) 5年間
人口	11,297	11,073	-224
世帯数	3,841	3,994	153
年少人口率	18.8%	15.5%	-3.3%
高齢化率	11.4%	14.4%	3.0%

人口・世帯数：玉村町人口移動表より集計  
 年少人口率・高齢化率：群馬県年齢別人口統計調査報告書より集計

- 本地域は、本町の東部に位置し、東は伊勢崎市、南は埼玉県上里町に隣接しており、後箇、上茂木、下茂木、川井、飯倉、五料、小泉、下之宮、箱石、南玉地区により構成されています。
- 地勢は、平坦地で、北側に利根川が、南側に烏川が位置し、国道354号（日光例幣使道）と東毛広域幹線道路（国道354号バイパス：整備中）が横断しています。
- 国道や町道沿い、河川沿いに市街地や集落地が形成され、その周辺は良好な田園環境を形成しています。

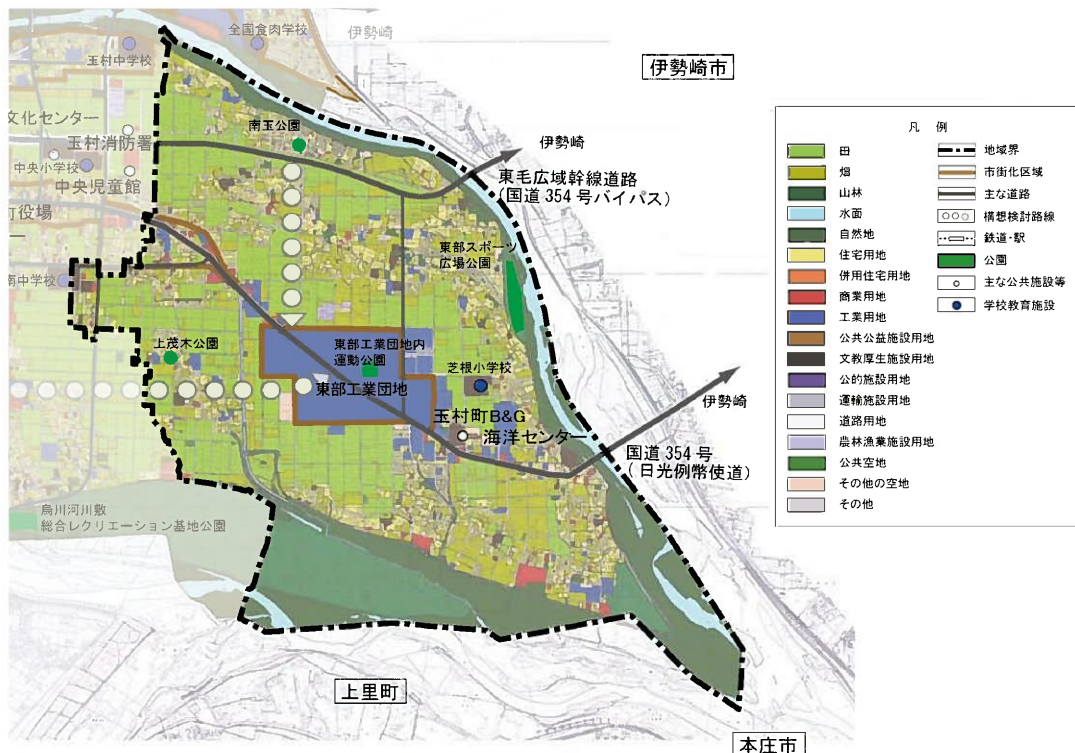


図 東部地域の土地利用現況



## 2. 地域の現状と課題

### (1) 土地利用

#### 【現状】

- 国道 354 号（日光例幣使道）沿いに住宅系市街地と工業系市街地が形成されていますが、商業系施設の立地が少ない状況にあります。また、利根川および烏川沿いや町道沿いに住宅地や集落地が分布しています。
- 工業系市街地の「東部工業団地」は、本町の産業拠点として、東毛広域幹線道路（国道 354 号バイパス）の整備により、さらなる工業機能集積が検討されています。
- 市街地や集落地周辺の田園地域は、稲や麦を中心として、優良な営農地が形成されています。
- 点在する住宅地や集落地では、一部に住宅開発による無秩序な都市化がみられるほか、狭い生活道路の改善や浸水対策の必要な地区がみられます。
- 利根川および烏川沿いは、ゴルフ場や河川緑地に加え、サイクリングロードが整備され、自然探索やレクリエーション資源として機能しています。



東部工業団地



市街化調整区域の住宅開発  
（下之宮地区）

#### 【主な課題】

- 幹線道路沿いの土地利用の推進による広域連携軸、都市間連絡軸の強化と適正な土地利用の誘導
- 地域活動の維持・活性化に向けた地域拠点や産業拠点の形成と住宅地や集落地への居住促進
- 住宅地・集落地の生活環境の維持・改善と周辺農業環境との調和
- 農業生産環境および自然環境の保全・活用

### (2) 都市間および地域間の交通網

#### 【現状】

- 道路は、地域の中央に国道 354 号（日光例幣使道）が位置し、地域内外との連絡に機能しています。地域北側に東毛広域幹線道路（国道 354 号バイパス）の整備が進められており、高崎・伊勢崎市等との都市間連携や高速道路へのアクセスの改善が図られつつあります。その他地域内を連絡する道路として主要町道が機能していますが、一部の住宅地や集落地では、幅員の狭い区間や安全対策が必要な箇所がみられます。
- 公共交通機関は、住宅地や工業地、集落地を網羅する形で、乗合タクシー（たまりん）が運行されており、地域住民の移



（仮称）利根川新橋の整備  
東毛広域幹線道路  
（国道 354 号バイパス）

動手段として機能しています。

○都市計画道路は、市街地を中心に2路線が計画されており、特に東西軸として東毛広域幹線道路(国道354号バイパス)を中心に整備が進められていますが、地域内を網羅するネットワーク形成には至っていません。また、一部に未整備な区間がみられます。

#### 【主な課題】

- 都市間および地域間連絡道路の整備促進とネットワークの強化
- 都市活動の円滑化や防災性の強化などに資する幹線道路網の整備促進や生活道路の改善
- 住民生活や移動を支える既存公共交通網の維持および充実

### (3) 住宅地および集落地の生活環境

#### 【現 状】

○住宅地や集落地では、生活道路の幅員や交通安全、公園・広場、雨水・汚水対策が充分でない箇所がみられます。

○主要河川沿いなどに住宅市街地や集落地が集積しており、中小河川や水路における生活排水の流入による水質汚濁が懸念されます。



滝川  
(下茂木地区)

#### 【主な課題】

- 住宅地や集落地における身近な生活環境の改善
- 地震や、浸水に対する防災対策、防犯対策の充実
- 下水道の整備促進

### (4) 地域資源

#### 【現 状】

○本地域の外周には、利根川、烏川が位置し、河川緑地や親水空間とともに、沿川の東部スポーツ広場公園やサイクリングロードなど、身近な散策・やすらぎ空間やレクリエーション空間として機能しています。

○B&G 海洋センターは、カルチャースクールなどの交流機能の拠点として機能しています。

○市街地や集落地周辺に農地が分布するとともに、利根川、烏川沿いに河川緑地が分布し、農業生産基盤や自然景観地として良好な景観を形成しています。



サイクリングロード (五料橋付近)



B&G 海洋センター

#### 【主な課題】

- 地域交流資源を活かした拠点形成
- 地域の特性である優良な自然資源の保全と活用

## (5) 景観

### 【現 状】

- 市街地や集落地周辺は、豊かな田園景観が形成されています。
- 利根川沿いは、河川緑地などの自然景観がまとまって残されています。
- 整備が進められている東毛広域幹線道路(国道 354 号バイパス) 沿道は優良な農業生産地であり、沿道利用の進展などによる景観阻害が懸念されます。



利根川沿いの河川緑地  
(五料橋付近)

### 【主な課題】

- 地域固有の特性である自然景観の保全と活用

### 3. 地域づくりの目標

全体構想での将来都市構造や分野別方針、地域の現状と課題を踏まえ、東部地域の地域づくりの目標を次のとおりとします。

#### 東部地域の目標

豊かな水と緑と産業が調和し、いきいきした暮らしをはぐくむ  
交流連携と福祉・健康の充実したまち

- 生活環境の維持・改善による生きがいと暮らし続けられるまちづくり
- 産業基盤の維持・拡充による活力あるまちづくり
- 地域間の交流連携や都市活動を支える交通網の強化
- 身近な自然とふれあえる、やすらぎと潤いのあるまちづくり

### 4. まちづくりの方針

#### (1) 生活環境の維持・改善による生きがいと暮らし続けられるまちづくり

##### ○OB&G海洋センター周辺地区（交流レクリエーション拠点）

- ・B&G海洋センター周辺地区は、本町の健康活動や交流レクリエーション機能を担う地区として、健康活動や地域活動、最寄り品などの日常生活サービス機能の充実を図り、地域特性に応じた交流レクリエーション拠点形成に努めます。



B&G 海洋センター周辺

##### ○住宅地および集落地の生活環境の維持・改善

- ・住宅地や集落地のうち、道路・公園等の施設が必要な地区においては、地区計画などを活用した住民との協働によるまちづくりを推進し、低・未利用地の活用を図るとともに、歩道や交通安全施設の整備を図り、安全で快適な居住環境の形成を図ります。
- ・B&G海洋センターや教育施設などの避難場所の防災性の向上を図るとともに、ライフラインの耐震補強、浸水対策の強化に努め、災害に強いまちづくりを進めます。



健康の森児童館

#### (2) 産業基盤の維持・拡充による活力あるまちづくり

##### ○東部工業団地（産業拠点）

- ・東部工業団地は、既に大規模な工場群が集積していますが、東毛広域幹線道路（国道354号バイパス）の整備や（仮称）高崎・玉村スマートICにより、広域交通網の充実が図られることから、周辺の自然環境との調和を図りつつ、工業機能



造成が進む東部工業団地周辺



のさらなる集積と操業環境の維持・拡充を図ります。

### ○東毛広域幹線道路（国道 354 号バイパス）および国道 354 号（日光例幣使道）の沿道

- ・広域連携軸の東毛広域幹線道路（国道 354 号バイパス）および都市間連絡軸の国道 354 号（日光例幣使道）の沿道は、周辺都市や地域間を結ぶ主要軸として、沿道サービス施設の充実や地域特性に応じた沿道景観づくりを推進します。

## （3）地域間の交流や都市活動を支える交通網の強化

### ○広域幹線道路の整備推進（東毛広域幹線道路（国道 354 号バイパス） 国道 354 号（日光例幣使道））

- ・周辺都市との連携強化と良好な沿道景観づくりに向けて、東毛広域幹線道路（国道 354 号バイパス）の着実な整備を進めるとともに、国道 354 号（日光例幣使道）の整備・改善を図ります。



国道 354 号（日光例幣使道）

### ○地域内の道路体系づくり（東部工業団地関連道路）

- ・地域内の幹線道路は、東毛広域幹線道路（国道 354 号バイパス）と国道 354 号（日光例幣使道）に限られていることから、既存町道を有効に活用しつつ、地域内道路ネットワークの構築を図ります。



地域内道路ネットワークの整備促進  
（東部工業団地から東毛広域幹線道路  
（国道 354 号バイパス）へのアクセス道）

### ○公共交通機関の維持・充実と人にやさしい交通環境づくり

- ・地域住民の移動手段である乗合タクシー（たまりん）の維持や地域ニーズに応じた充実を図るとともに、地域内道路ネットワークの構築と連携しつつ、住宅地や集落地における歩行者・自転車空間の充実を図り、人や環境にやさしい交通環境づくりに努めます。

## （4）身近な自然とふれあえる、やすらぎと潤いのあるまちづくり

### ○優良な農業生産基盤の保全

- ・市街地や集落地周辺に広がる優良な農地は、引き続き保全・整備を図り、地域産業の一層の発展や地域活力の向上に努めます。

### ○市街地に隣接する自然環境の保全・活用

- ・赤城山や榛名山などの美しい山並み景観を背景に、利根川および烏川流域のレクリエーション資源や貴重な緑地資源の保全と活用に努め、住民にとって潤いとやすらぎの感じられる自然空間の形成に努めます。



優良な農地

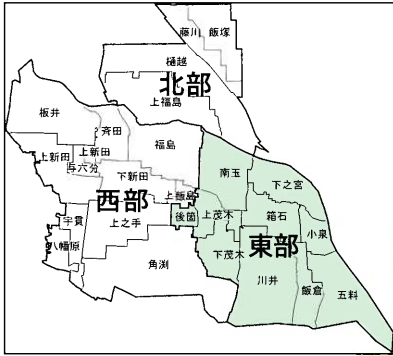


河川緑地（玉村公園ゴルフ場）



利根川沿いのサイクリングロード

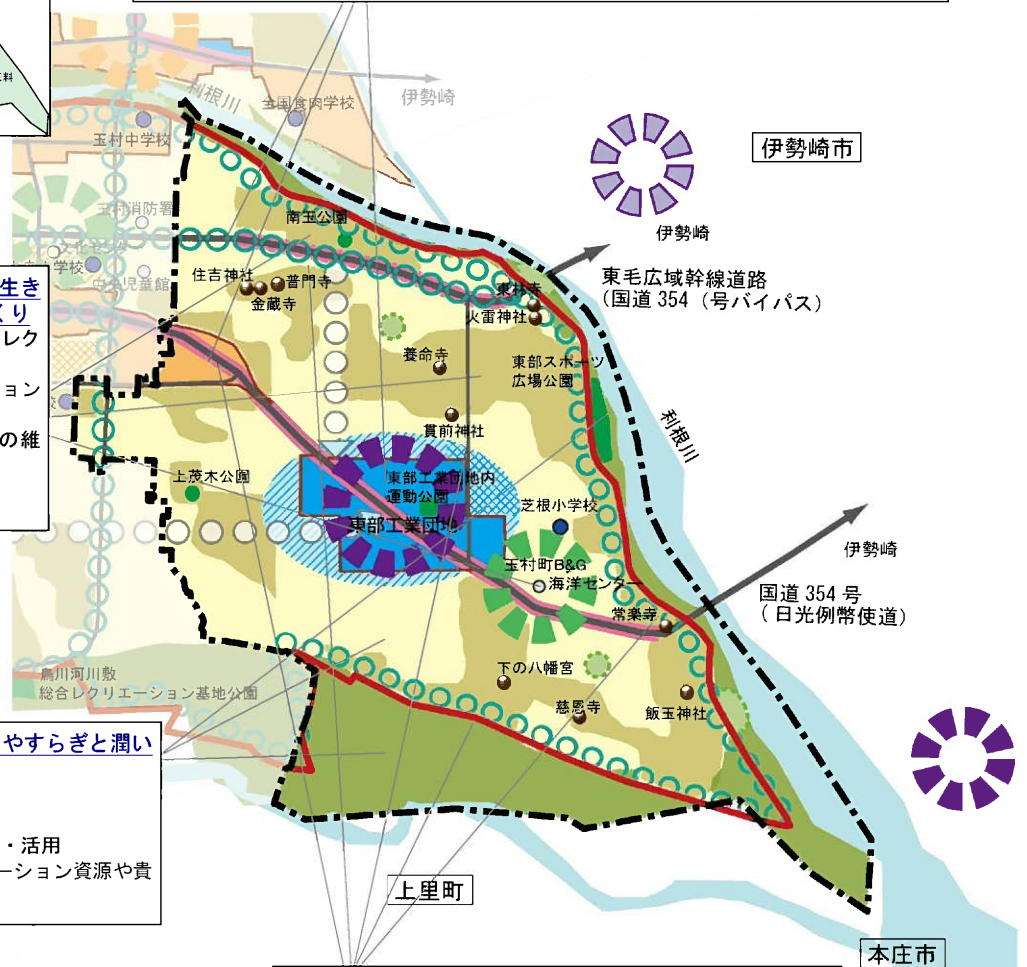
東部地域



**(2) 産業基盤の維持・拡充による活力あるまちづくり**  
 ○東部工業団地地区（産業拠点）  
 ・工業機能のさらなる集積と操業環境の維持・拡充  
 ○東毛広域幹線道路（国道354号バイパス）および国道354号（日光例幣使道）の沿道  
 ・沿道サービス施設の充実や地域特性に応じた沿道景観づくり

**(1) 生活環境の維持・改善による生きがいと暮らし続けられるまちづくり**  
 ○B&G海洋センター周辺地区（交流レクリエーション拠点）  
 ・地域特性に応じた交流レクリエーション拠点形成  
 ○住宅地および集落地の生活環境の維持・改善  
 ・安全で快適な居住環境の形成

**(4) 身近な自然とふれあえる、やすらぎと潤いのあるまちづくり**  
 ○優良な農業生産基盤の保全  
 ・優良な農地の保全・整備  
 ○市街地に隣接する自然環境の保全・活用  
 ・利根川および烏川流域のレクリエーション資源や貴重な緑地資源の保全と活用



**(3) 地域間の交流や都市活動を支える交通網の強化**  
 ○広域幹線道路の整備推進  
 ・周辺都市との連携強化と良好な沿道景観づくり  
 ○地域内の道路体系づくり（東部工業団地関連道路）  
 ・地域内道路ネットワークの構築  
 ○公共交通機関の維持・充実と人にやさしい交通環境づくり  
 ・乗合タクシー（たまりん）の維持・充実  
 ・歩行者・自転車空間の充実

凡例

住宅地	地域界	都市交流拠点
住宅系構想市街地（既成市街地）	市街化区域	地域拠点
住宅系構想市街地（新市街地）	主な道路	産業拠点
商業業務地	構想検討路線	産業構想拠点
沿道サービス地	鉄道・駅	交流レクリエーション拠点
工業地	公園（既存）	商業系土地利用検討地
産業・業務系構想市街地（既成市街地）	公園（構想）	主な河川
産業・業務系構想市街地（新市街地）	主な公共施設等	サイクリングロード
農地	自転車・歩行者ネットワーク	歴史文化資産
集落地	学校教育施設	
河川緑地		

図 東部地域のまちづくり方針（案）